

## 修 士 論 文 要 旨

看護学専攻	生涯看護学分野 老年看護学領域	学籍番号	217604
		氏 名	岡根 利津
論文題目	人工呼吸器装着場面における熟練看護師の観察の特長 —眼球運動の解析を用いた新人レベル看護師との比較から—		
キーワード	人工呼吸器、観察、眼球運動、注視、熟練看護師		
<p><b>【目的】</b> 本研究の目的は、人工呼吸器装着場面における熟練看護師（以下熟練）の観察の特長を明らかにするために、眼球運動を用いて新人レベル看護師（以下新人）の観察と比較することである。</p> <p><b>【方法】</b> 急性期病院の集中治療領域の部署に所属する新人8名と熟練8名を研究参加者とし、人工呼吸器を装着した模擬患者の映像を観察した。観察に用いた映像は、安静時と状態変化時の2場面の動画で、各30秒間提示した。患者情報は、年齢、性別、疾患名、人工呼吸器の設定値、投与されている輸液の種類および投与方法、入院時からの経過を示した。研究参加者の属性は、年齢、看護師経験年数、所属病棟の特性および継続勤務年数、人工呼吸器を装着した患者を受け持つ頻度を確認し、さらに新人には、人工呼吸管理に関する院内教育の有無および院外研修への参加度について確認した。</p> <p>分析方法は、映像を7領域に区分し、安静時および状態変化時の注視時間、注視回数、注視移動回数を算出した。統計解析は新人・熟練各群において場面と領域における二元配置分散分析およびBonferroniの多重比較を行った。</p> <p><b>【結果】</b> 7領域における注視時間は、新人・熟練ともに領域の主効果のみ有意であり、【顔】【呼吸器画面】【モニター】【上半身・上肢】が有意に長く【下半身】は有意に短かった。注視回数および注視移動回数は、新人は領域の主効果のみ有意であり【顔】【呼吸器画面】【モニター】【上半身・上肢】の注視回数および注視移動回数が有意に多く、【下半身】は有意に少なかった。一方熟練は交互作用が有意であり、注視回数および注視移動回数が多い領域は新人と同じ傾向を示したが、安静時より状態変化時に【顔】の注視回数と注視移動回数が有意に増加した。</p> <p>さらに【顔】を含む注視の移動について、新人は領域による主効果のみ有意であり特に【顔】と【上半身・上肢】の双方向の注視の移動が有意に多かった。一方熟練は交互作用が有意であり、安静時には新人と同じ結果であったが、状態変化時は【顔】と【呼吸器画面】、【顔】と【上半身・上肢】の双方向の注視の移動が有意に多かった。そして安静時より状態変化時に【顔】と【呼吸器画面】、【顔】と【上半身・上肢】の注視移動回数が有意に増加した。</p> <p><b>【考察】</b> 人工呼吸器装着場面の観察における看護師の注視の特徴として、【顔】【呼吸器画面】【モニター】【上半身・上肢】などを優先して観察しており、新人も熟練と同じ領域を観察していることが推察された。</p> <p>一方で熟練看護師の観察の特長として、患者の顔と医療機器からの情報を関連させながら重点的に取り込んでおり、患者の状態に変化がある時には、患者の顔を基点として情報をより迅速に取り込んでいることが推察された。以上のことから、熟練看護師の観察の特長が明らかになることで、多様な観察を効率的に習得するための教育の構築につながると考える。</p>			